

厚生労働省「地域がん登録」研究班による がん患者の生存率全国値の推計

大島 明* 味木 和喜子 津熊 秀明

1. 目的

厚生労働省「がん登録」研究班では、1975年以降わが国における比較的高精度の地域がん登録室のデータを用いてがん罹患数・罹患率の全国値を推計してきたが、2000年度からがん患者の生存率の全国値を推計することを目的として協同調査を開始した。推計したがん患者の5年生存率の全国推計値は、がん罹患率の全国値の推計値とともに、わが国のがん対策の今後の方向を検討する際の基礎的数値となる。

2. 対象・方法

厚生労働省がん研究助成金「地域がん登録」研究班では、登録の精度が一定水準に達した地域がん登録室に参加を求め、1975年から97年までのがん罹患率の全国値の推計をおこなってきた。2000年度から開始した生存率協同調査では、12登録の参加を得て1993年診断がん患者の5年生存率を計測することとした。対象は、死亡票のみで登録されたもの及び上皮内がん（大腸の粘膜がんを含む）を除き、多重がんの場合は第1がんのみとした。総数は80,607人で1993年全国がん罹患数推計値（432,990人）の19%に相当した。追跡方法は、登録室によって異なっており、4登録室では住民票照会によるactive follow-upがおこなわれたが、残り5登録室では全死亡票（姓名の情報を入力した死亡票ファイル）との照合、残り3登録室では人口動態死亡票テープ（姓名の情報は入力されていない）との照合によ

る passive follow-up であった。Kaplan-Meier法を用いて5年実測生存率を計算し、実測生存率を期待生存率で除して相対生存率を求めた。期待生存率は0.5歳上乘せしたコホート生存率表に基づき Ederer II法により計算した。

3. 結果

12登録から収集した1993年診断の主要部位のがん患者の5年相対生存率は次のとおりであった。全部位：50.4%（男：46.0%、女：56.3%、以下同じ）胃：57.3%（55.3%、57.3%）大腸：65.7%（67.2%、63.6%）肝：17.8%（17.7%、18.2%）、肺：20.5%（19.0%、24.3%）乳房：84.0%、子宮：72.7%であった。

比較的稀な部位のがん患者の5年相対生存率は、食道：22.7%、胆のう：20.9%、膵：7.6%、喉頭：77.6%、卵巣：45.5%、前立腺：62.7%、精巣：90.8%、腎：61.3%、膀胱：76.0%、甲状腺：90.4%、リンパ腫：45.8%、白血病：31.1%であった。

4. 考察

今回初めて計測したがん患者の生存率の全国推計値は、これまで大阪府がん登録から報告してきた生存率の数値に比べてやや高いが、これには、登録精度や追跡調査の完全性の問題を考慮に入れる必要がある。今後、「地域がん登録」研究班として生存率計測の協同調査を継続し、がん診療のモニタリングのための基礎資料とする予定である。

*大阪府立成人病センター調査部（厚生労働省がん研究助成金「地域がん登録」研究班事務局）
〒537-8511 大阪市東成区中道 1-3-3